



帯山小学校だより

No.4 R5.7.3 文責 校長 西方 浩一

「WinWin」の関係づくりを目指して

帯山小では地元の大学生がボランティアとして子どもに寄り添ってくれたり、休み時間に一緒に遊んでくれたりしています。学生との活動を楽しみに、登校する時間が増えた子どももいました。こうした活動は、学生や子どもにとって、また、学校にとっても「WinWin」の関係です。



これは学生だけにあてはまる話ではありません。教員が元気でやる気に満ちていると子どもたちが得をします。子どもたちが得をすると保護者の方が喜び、地域は活性化します。目指すは、子どもや保護者、地域、そして、教員にとっての「WinWin」な関係づくりです。本校の子どもたち、保護者、地域が、そして、本校職員が元気に活躍できるように、つながりを大切にしながら取り組んでいきましょう！



第1回帯山小学校いじめ防止等対策委員会

先月15日(木)、第1回目のいじめ防止等対策委員会を開催しました。会にお招きした3人の方々のご意見を紹介させていただきます。

★河原田スクールサポーター(東警察署): いじめ事案について警察に被害届を出されるケースが増えている。慰謝料を要求されたり、治療費を請求されたりすることもある。ある学校では、石津ちひろさんの詩集を毎日読み聞かせしていたらいじめ事案がなくなった学校があったので紹介する。

★宮地スクールカウンセラー: 自分としては先生方のメンタルヘルスが気になることである。また、中学生の相談を受けていると、小学校の頃の経験が影響していることが少なくない。小学校からの対応が大切である。

★牛尾PTA会長: 「ことば」の大切さを強く感じる。親がしっかりと教えていくことが大切である。

警察をはじめとする関係機関との連携は大切です。また、前述のように先生が元気でなければ子どもたちも元気になれません。「ことば」に関しても、子どもたちの会話の中で聞くに堪えないことばが聞こえてくることもあります。「ことば」は「言霊」です。まずは、私たち大人から言語環境を整えていきましょう。

ある朝の風景

雨上がりの蒸し暑い日の朝、いつものようにゴミを拾いながら子どもたちとあいさつを交わしていました。ふと、校舎の3階から合唱部の美しい歌声が聞こえてきます。コンクールを目指して頑張っているの



だなと感心して花壇に目をやると、一人一鉢やグリーンボランティアの皆さんがきれいにくださった花壇に水やりをする子どもたち。命を大切にする優しい姿が花々と同じように輝いて見えました。すると「校長先生、おはようございます。」とあいさつをし「夏休みはおばあちゃんの家に行って魚釣りをします。」と嬉しそうに語りかけてくれる子どもがいます。「学校っていいなあ」としみじみと感じたひと時でした。